

[災害統計]

平成28年における車両系荷役運搬機械等による死亡災害の発生状況

平成28年に発生したフォークリフト等の車両系荷役運搬機械等に起因する労働災害による死亡者数は31名で、前年の25名に比べ6名(24.0%)の増加となった。

機械の種類別・業種別の死亡者数は表1のとおりである。

機械の種類別では、フォークリフトに起因するものが28名(90.3%)と圧倒的に多く、残りは不整地運搬車の3名(9.7%)となっている。

業種別でみると、製造業と商業・卸売業がそれぞれ6名ずつで最も多く、次いで道路貨物運送業の5名、建設業の4名と続き、この4業種で約75%を占めている。

次に、フォークリフトの事故の型別・業種別の死亡者数は表2のとおりである。

「墜落・転落」によるものが11名(39.3%)と最も多く、次いで「はさまれ・巻き込まれ」によるものが7名(25.0%)、「転倒」によるものが4名(14.3%)と続いている。また、災害の発生状況を見てみるとフォークリフトを高所作業や揚重作業に使用した「用途外使用」による事故が見受けられる。

不整地運搬車については、3件発生しており、「墜落・転落」と「はさまれ・巻き込まれ」による事故となっている。

[情報提供：厚生労働省]

表1 車両系荷役運搬機械等の種類別・業種別死亡災害発生状況(平成28年)

(単位：人)

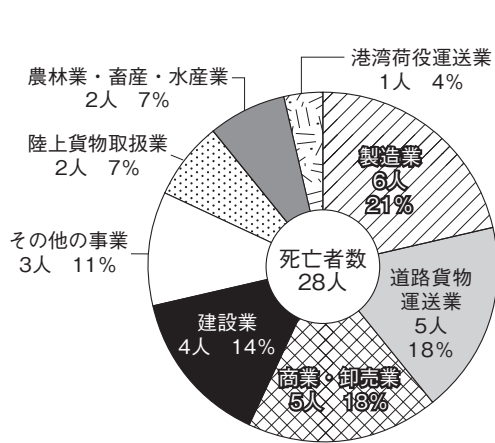
業種 機械の種類	製造業	鉱業	建設業	道路貨物 運送業	陸上貨物 取扱業	港湾荷役 運送業	農林業 畜産・ 水産業	商業 卸売業	その他の 事業	計
フォークリフト	6	0	4	5	2	1	2	5	3	28
不整地運搬車	0	1	0	0	0	0	1	1	0	3
合計	6	1	4	5	2	1	3	6	3	31

表2 フォークリフトによる事故の型別・業種別死亡災害発生状況（平成28年）

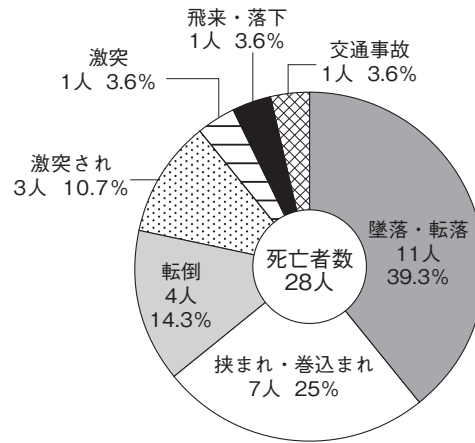
（単位：人）

事故の型	業種									計
	製造業	鉱業	建設業	道路貨物 運送業	陸上貨物 取扱業	港湾荷役 運送業	農林業・ 畜産・ 水産業	商業 卸売業	その他の 事業	
墜落・転落	2	0	2	2	1	0	1	1	2	11
転倒	1	0	1	1	0	0	0	1	0	4
激突	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
飛来・落下	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
激突され	2	0	0	0	0	0	1	0	0	3
挟まれ・巻込まれ	0	0	1	2	1	1	0	1	1	7
交通事故（道路）	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	6	0	4	5	2	1	2	5	3	28

車両系荷役運搬機械（フォークリフト）



グラフ1：業種別



グラフ2：事故の型別